

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成27年度農作物病害虫発生予察情報について

平成27年度農作物病害虫発生予報第3号を発表したので送付します。

平成27年度農作物病害虫発生予報第3号

平成27年6月1日
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が5.0%、発病度が0.1であり、ほぼ平年(0.0%, 0.0)並の発生である。
なお、補植用置き苗では発生を認めていない(過去10年間の発病率:平成17~23は未確認、平成24年は9.1%、平成25~26年は未確認)。
- (2) 5月28日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本田葉いもちの伝染源になるので、置き苗は補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生が認められたら直ちに液剤による防除を行なう。また、常発田では粒剤を予防散布する。

普通期水稻

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が0.0%、発病度が0.0)。
なお、補植用置き苗でも発生を認めていない(過去10年間の発病率:平成17~23年は未確認、平成24年は14.3%、平成25~26年は未確認)。
- (2) 5月28日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本田葉いもちの伝染源になるので、置き苗は補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生が認められたら直ちに液剤による防除を行なう。また、常発田では粒剤を予防散布する。

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は20.0%で、平年(15.6%)並であるが、25株当たり成虫数は1.6頭で、平年(0.4頭)と比べて高めの発生である。
- (2) 5月28日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 根腐しやすい水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け根を健全に保つ。

サツマイモ

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が28.6%、寄生株率が6.3%であり、平年(71.1%, 21.1%)と比べて低めの発生である。
- (2) 5月28日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。

イモキバガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が21.4%、被害葉率が0.9%であり、平年(10.7%, 0.2%)と比べてやや高めの発生である。
- (2) 5月28日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 通常の発生であれば、特に防除は必要ない。多発した場合には、食葉性害虫等の防除に併せて薬剤を散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が46.7%で、平年(26.8%)と比べてやや高いが、寄生葉率は2.0%であり、平年(4.5%)と比べてやや低めの発生である。
- (2) 5月28日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。

II. 果樹

カンキツ

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年より早い(前年より早い)

2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場での第1世代幼虫の発生は5月14日に初確認された(平年:5月17日,前年:5月22日)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤による防除適期は、IGR剤の場合には発生確認の10~15日後、有機リン剤の場合には35~40日後の時期である。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並~やや少なく(前年並),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、旧葉での発生圃場率が50.0%であり、平年(39.8%)と比べてやや高めの発生であるが、寄生葉率は2.5%であり、平年(7.0%)と比べてやや低めの発生である。

- (2) 5月28日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。
(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類(5月13日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い(前年並)

発生量 平年より多く(前年より多い),発生程度は「中~多」

2) 予報の根拠

- (1) 今春の予察灯調査において、ツヤアオカメムシは勝浦町では平年(4月28日)より早い4月5日に、上板町では平年(4月27日)と同時期の4月26日に初誘殺を確認した。チャバネアオカメムシは勝浦町では平年(4月29日)より早い4月20日に、上板町では平年(4月28日)と同時期の4月28日に初誘殺を確認した。

- (2) 5月28日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁					上					板					田丁				
	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年
5.1	188	28	0	97	19	34	50	0	13	15	34	50	0	13	15	34	50	0	13	15	34	50	0	13	15	34	50	0	13	15
5.2	180	28	28	166	52	37	19	0	54	27	37	19	0	54	27	37	19	0	54	27	37	19	0	54	27	37	19	0	54	27
5.3	149	96	76	53	46	43	216	2	34	35	43	216	2	34	35	43	216	2	34	35	43	216	2	34	35	43	216	2	34	35
5.4	348	104	50	71	160	27	76	2	14	44	27	76	2	14	44	27	76	2	14	44	27	76	2	14	44	27	76	2	14	44
5.5	27	132	34	49	87	17	103	1	15	40	17	103	1	15	40	17	103	1	15	40	17	103	1	15	40	17	103	1	15	40
5.6		222	43	170	102		249	29	4	38		249	29	4	38		249	29	4	38		249	29	4	38		249	29	4	38
6.1		154	7	75	84		116	2	15	20		116	2	15	20		116	2	15	20		116	2	15	20		116	2	15	20

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁					上					板					田丁				
	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年
5.1	225	12	0	22	6	38	2	0	4	2	38	2	0	4	2	38	2	0	4	2	38	2	0	4	2	38	2	0	4	2
5.2	61	4	0	22	8	10	3	0	20	20	10	3	0	20	20	10	3	0	20	20	10	3	0	20	20	10	3	0	20	20
5.3	35	34	6	3	9	18	19	0	31	17	18	19	0	31	17	18	19	0	31	17	18	19	0	31	17	18	19	0	31	17
5.4	126	40	5	7	18	8	56	0	14	17	8	56	0	14	17	8	56	0	14	17	8	56	0	14	17	8	56	0	14	17
5.5	17	50	20	4	33	6	33	1	3	11	6	33	1	3	11	6	33	1	3	11	6	33	1	3	11	6	33	1	3	11
5.6		107	19	17	21		52	9	3	9		52	9	3	9		52	9	3	9		52	9	3	9		52	9	3	9
6.1		42	3	4	16		30	0	5	6		30	0	5	6		30	0	5	6		30	0	5	6		30	0	5	6

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は100%、葉の被害度は9.1であり、平年(93.3%, 9.2)並の発生である。
- (2) 5月28日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発し、残暑が続くと秋口にも発生が多くなる。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は100%、葉の被害度は24.2であり、平年(51.1%, 3.4)と比べて高めの発生である。

(2) 5月28日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発する。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。